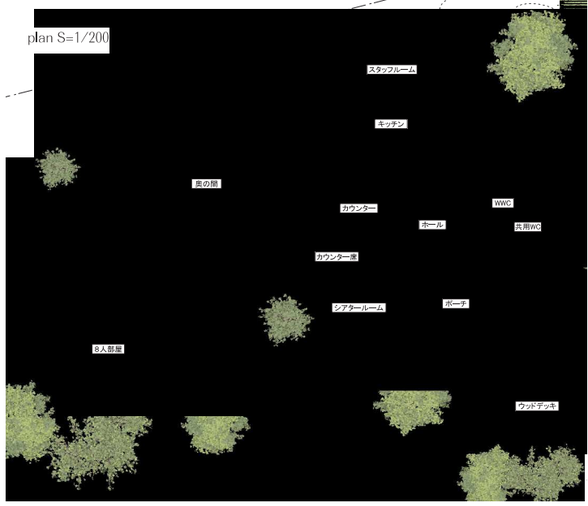
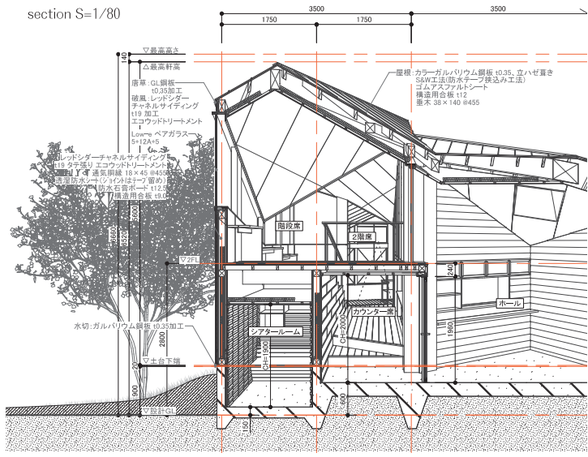


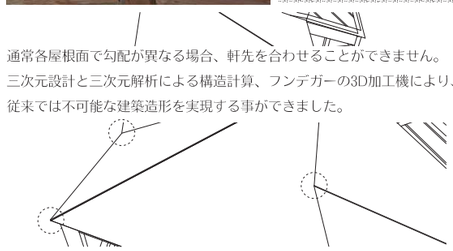


CONCEPT　『入ってみたくなる、座っていたくなる、』

サンゴに群がる魚たち、木の枝のこかげで羽を休める小鳥たち。
これは、そんなイメージの一つのカフェです。

原案は小さな複数の建物が各棟の間隔を保ちながら関係し合うというものでした。
オペレーションや新潟の冬季の気候を考慮し、実施設計ではこのように
部分的に建物が一体化する形状になりましたが、その機能は決してコンセプトから
外れてはおりません。
塊となることで構造はかなり複雑化し、RC造で当初は構造解析を進める予定でしたが
飛躍的に進歩したプレカット（金具止め）工法が意外にも木造化を具体的にしてくれ、
結果イニシャルコストを抑えることにもつながりました。

1つの建築がその地に建つことで、どう周囲環境がその建物を包み込み活用しながら
どう愛し続けるか…。（その地域にどういった物が必要とされていてまた、
一つの建築がその場に置かれることがきっかけとなって、今後どんな可能性を秘めて
いるか…。）
私は常に建築をそれ単体で設計した事はおそらくありません。

カフェの周囲を包み込む樹木の成長とともにこの建築は本当の完成へと近づきます。

通常各屋根面で勾配が異なる場合、軒先を合わせることができません。
三次元設計と三次元解析による構造計算、フンデガーの3D加工機により、
従来では不可能な建築造形を実現する事ができました。